

イネツトムシ(イチモンジセセリ)

1 形態と生態

- (1)イネツトムシは、幼虫がイネの葉に苞状の巣を作ることからの名称です。イチモンジセセリは、標準和名です。成虫には、羽に一文字の白い斑紋があることからの名称です。
- (2)卵はまんじゅう型で、卵の直径は5月下旬～6月と7月下旬～8月上旬(第1世代と第2世代)は約0.8mm、9月上旬～(第3世代)は約0.9mmです。最初は白色ですが、ふ化の前には中心が黒くなります。
- (3)幼虫は緑色で、通常5齢を経て蛹になります。ふ化直後から葉に切れ込みを入れて糸を架け、苞を造ってその中で昼間を過ごし、夜になると活動して葉を食害します。幼虫は、5齢後期になると体長が4cm以上になり、側面にある気門から白い粉を出します。前蛹は、イネの葉を苞状に糸を絡めた蛹室を造り、蛹化します。
- (4)暖地系の害虫なので関東以南で越冬しますが、成虫の移動力が強いいため、東北や北海道でも大発生することがあります。越冬態は幼虫です。埼玉県内での越冬は困難ですが5月中旬から成虫が出現、通常は成虫が年3回発生します。第1世代・第2世代幼虫はイネだけに発生し、第3世代は主にイネ科雑草で発生します。



写真1 卵



写真2 若齢幼虫



写真3 終齢幼虫



写真4 成虫

2 被害の様子

被害は、幼虫による葉の食害が主ですが、苞状の巣が出穂を妨害するため減収被害もあります。

7月下旬～8月に発生する第2世代幼虫によって著しい被害が発生します。気温の高い時期ですので発育が早く、食べる量も急激に増加し、8月中旬までに葉が食い尽くされてしまうこともあります。

3 発生について

(1)発生条件

- ・6月以降の遅い移植イネ。
- ・窒素の多肥。
- ・地力のある水田。
- ・葉色の濃い品種。



写真5 苞状の巣

(2) 発生消長

成虫の発生量は、5月～6月は少発生(越冬世代)ですが、7月中旬～8月上旬には訪花成虫が容易に確認できる程度の発生が見られ(第1世代)、8月下旬～10月は多発生します(第2世代)。

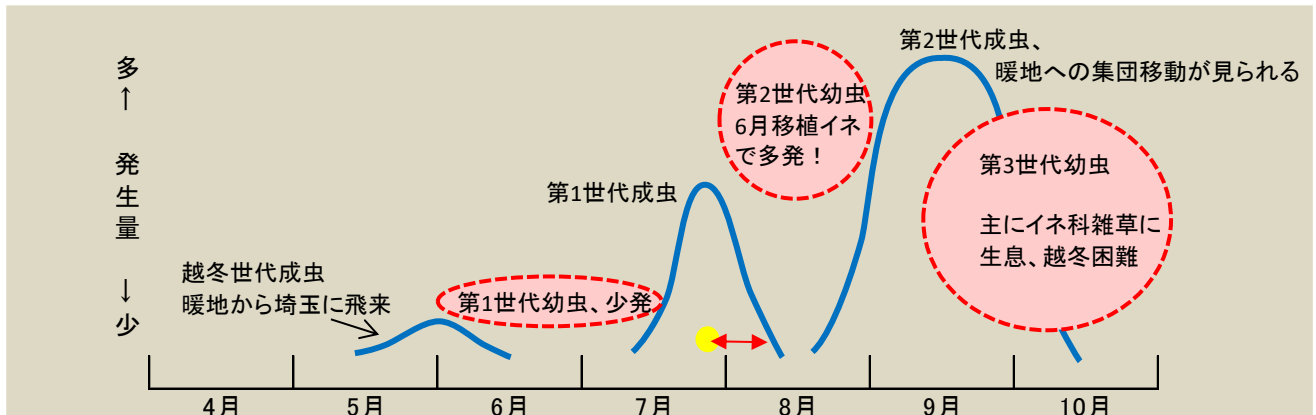


図1 埼玉県におけるイネツトムシの発生消長

— : 成虫 ○ : 幼虫 ● : ふ化最盛日(平年は7月26日) ⇄ : 防除適期

4 防除時期と防除方法

(1) 耕種的防除

- ア 多発ほ場では移植時期を早めるとともに窒素肥料を少なくします。
- イ 緩効性肥料や育苗箱全量基肥施肥法は、窒素の削減に有効です。

(2) 薬剤防除

ア 防除時期は第2世代幼虫の若齢期です。

イ 薬剤防除の適期は、ふ化最盛日の4～10日後です。

なお、平年のふ化最盛日は7月26日なので、7月30日～8月5日頃が防除適期となります。

ウ 6月～7月の気温により、防除適期は前後します。病害虫防除所が発育予測モデルを用いて発表する情報を参考にしてください。

薬剤防除を実施する場合は、

- 最終有効年月内の農薬を使用し、ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を必ず確認してください。
- 適切な薬剤を選択し、病害虫が抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。
- 農薬を散布する際は飛散しないよう対策を講じてください。

■ 発行 平成28年2月 埼玉県農産物安全課、一般社団法人埼玉県植物防疫協会

■ 問合せ先(原稿執筆)

埼玉県病害虫防除所 TEL048-539-0661

埼玉県農業技術研究センター生産環境・安全管理研究担当 TEL048-536-0409



©埼玉県 2005

彩の国埼玉県